

誰もが、ただ、いていい場所。



西本願寺

立教開宗記念法要

春の法要

2026(令和8)年

4月13日(月)

14日(火)

15日(水)

経文を掲載しております。
大切にお取り扱ってください。

恩徳讃

如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

ほねをくだきても謝すべし



目次

恩徳讃	1
ご挨拶 〈浄土真宗本願寺派総長 園城義孝〉 〈本願寺執行長 藤實無極〉	3
伝灯奉告法要 ご親教「念仏者の生き方」	5
浄土真宗の教章(私の歩む道)	7
法要・行事日程／講社紹介	8
お西さんで過ごす一日／お西さんを知ろう！	10
御本典作法	11
正信念佛偈	18
「共通勤行」和訳正信偈	23
国宝・重要文化財 特別公開	27
本願寺音御堂 2026・春	28
帰敬式	29
「院号」をいただくには	30
免物	31
お西さんの奉仕団(半日バージョン)	32
第23代宗主勝如上人25回忌法要	33
2026(令和8)年 本願寺の法要行事	34
宗祖降誕会のご案内	34

2026(令和8)年

立教開宗記念法要(春の法要)

4月13日・14日・15日

宗祖親鸞聖人が『顕浄土真実しゅうそしんらんしやうにん けんじやうどしんじつ
教行証文類(教行信証)』を撰きやうぎやうしやうもんるい きやうぎやうしんじやう
述された一二三四(元仁元)年を
浄土真宗立教開宗の年と定め、
毎年この春の時期に法要をお勤
めしています。

立教開宗記念法要（春の法要）にあたって

浄土真宗本願寺派総長

その 園 城 義 孝
ぎ き こう

本願寺執行長

ふじ 藤 實 無 極
み み ぐく

みなさま、全国各地からようこそ本願寺へご参拝くださいました。

宗門では、宗祖親鸞聖人が、浄土真宗を開かれたことを記念して立教開宗記念法要（春の法要）を修行いたしております。

浄土真宗の立教開宗は、親鸞聖人が『顕浄土真実教行証文類（教行信証）』を著し、『仏説無量寿経』に説かれる阿弥陀如来の教えの本義を明らかにされたことによります。立教開宗の書『教行信証』こそ、わが宗門の宝であり、浄土真宗の根本聖典として、最も敬重すべきものであります。

浄土真宗のみ教えは、迷いの人生を歩む私たちが阿弥陀如来の救いのはたらきによって、浄土というさとりの世界に生まれさせていただく教えです。如来のはたらきとは、如来の「よび声」であり、それは私たちが称える「南無阿弥陀仏」のお念仏として届いています。私たちは、お念仏として届く救いのはたらきに支えられ、浄土という真実の世界にふれながら、日々を力強く生かされていくのです。宗門では新たに「ともにお念仏申す身となる」とのスローガンを掲げました。一人ひとりがお念仏をよろこぶ身となる中で、そのよろこびをとものに分かちあいたいものです。

この立教開宗記念法要（春の法要）参拝をご縁に、お念仏のみ教えという確かな依りどころに出遇えたことを、共に喜ばせていただき、お念仏申させていただきましょう。

本日は、うららかな春のひとときを、本願寺でこゆつくりとお過ごしください。

合 掌

伝灯奉告法要 ご親教 「念仏者の生き方」

仏教は今から約二五〇〇年前、釈尊しやくそんがさとりを開いて仏陀ぶつだとなられたことに始まります。わが国では、仏教はもとも仏法ぶつぽうと呼ばれていました。ここでいう法とは、この世界と私たち人間のありのままの真実ということであり、これは時間と場所を超えた普遍的な真実です。そして、この真実を見抜き、目覚めた人を仏陀といい、私たちに苦悩を超えて生きていく道を教えてくれるのが仏教です。

仏教では、この世界と私たちのありのままの姿を「諸しよ行無常ぎやうむじやう」と「縁起えんぎ」という言葉で表します。「諸行無常」とは、この世界のすべての物事は一瞬もとどまることなく移り変わっているということであり、「縁起」とは、その一瞬ごとにするすべての物事は、原因や条件が互いに関わりあつて存在しているという真実です。したがって、そのような世界のあり方の中には、固定した変化しない私というものは存在しません。

しかし、私たちはこのありのままの真実に気づかず、自分というものを固定した実体と考え、欲望の赴くままに自分にとって損か得か、好きか嫌いかなど、常に自己中心

の心で物事を捉えています。その結果、自分の思い通りにならないことで悩み苦しんだり、争いを起こしたりして、苦悩の人生から一歩たりとも自由になれないのです。このように真実に背いた自己中心性を仏教では無明むみょう煩悩ぼんのうといい、この煩悩が私たちを迷いの世界に繋ぎ止める原因となるのです。なかでも代表的な煩悩は、むさぼり・いきり・おろかさの三つで、これを三毒さんどくの煩悩といえます。

親鸞しんらん聖人も煩悩を克服し、さとりを得るために比叡山ひえいざんで二十年にわたりご修行に励まれました。しかし、どれほど修行に励もうとも、自らの力では断ち切れない煩悩の深さを自覚され、ついに比叡山を下り、法然ほつねん聖人のお導きによって阿弥陀あみだ如来の救いのはたらきに出遇あわれました。阿弥陀如来とは、悩み苦しむすべてのものをそのまま救い、さとりの世界へ導こうと願われ、その願い通りにはたらき続けてくださっている仏さまです。この願いを、本願ほんがんといえます。我執がしやく、我欲がよくの世界に迷い込み、そこから抜け出せない私を、そのままの姿で救うとはたらき続けてくださる阿弥陀如来のご本願ほど、有り難いお

慈悲はありません。しかし、今ここでの救いの中にありませんが、その慈悲ひとすじにお任せできない、よろこばない私の愚かさ、煩惱の深さに悲嘆せざるをえません。

私たちは阿弥陀如来のご本願を聞かせていただくことで、自分本位にしか生きられない無明の存在であることに気づかされ、できる限り身を慎み、言葉を慎んで、少しずつでも煩惱を克服する生き方へとつくり変えられていくのです。それは例えば、自分自身のあり方としては、欲を少なくして足ることを知る「少欲知足」であり、他者に対しては、穏やかな顔と優しい言葉で接する「和顔愛語」という生き方です。たとえ、それらが仏さまの真似事といわれようとも、ありのままの真実に教え導かれて、そのように志して生きる人間に育てられるのです。このことを親鸞聖人は門弟に宛てたお手紙で、「(あなた方は)今、すべての人びとを救おうという阿弥陀如来のご本願のお心をお聞きし、愚かなる無明の酔いも次第にさめ、むさぼり・いかり・おろかさという三つの毒も少しずつ好まぬようになり、阿弥陀仏の薬をつねに好む身となっておられるのです」とお示しになられています。たいへん重いご教示です。

今日、世界にはテロや武力紛争、経済格差、地球温暖

化、核物質の拡散、差別を含む人権の抑圧など、世界規模での人類の生存に関わる困難な問題が山積しています。が、これらの原因の根本は、ありのままの真実に背いて生きる私たちの無明煩惱にあります。もちろん、私たちはこの命を終える瞬間まで、我欲に執られた煩惱具足の愚かな存在であり、仏さまのような執われのない完全に清らかな行いはできません。しかし、それでも仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心にかなう生き方を目指し、精一杯努力させていただく人間になるのです。

国の内外、あらゆる人びとに阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しく、わかりやすく伝え、そのお心にかなうよう私たち一人ひとりが行動することにより、自他ともに心豊かに生きていくことのできる社会の実現に努めたいと思います。世界の幸せのため、実践運動の推進を通し、ともに確かな歩みを進めてまいりましょう。

二〇一六(平成二十八)年十月一日

浄土真宗本願寺派門主 大谷光淳

※このご親教は、伝灯奉告法要初日にお示しくださいました。

浄土真宗の教章（私の歩む道）

宗名 浄土真宗
宗祖 親鸞聖人

（ご開山）

ご誕生 一七三三年五月二十一日
（承安三年四月一日）

ご往生 一二六二年一月十六日
（弘長二年十一月二十八日）

浄土真宗本願寺派

龍谷山 本願寺（西本願寺）

阿弥陀如来（南無阿弥陀仏）

・釈迦如来が説かれた「浄土三部経」

『仏説無量寿経』

『仏説観無量寿経』

『仏説阿弥陀経』

・宗祖 親鸞聖人が著述された主な聖教

『正信念仏偈』（教行信証）行巻末の偈文

『浄土和讃』 『高僧和讃』 『正像末和讃』

・中興の祖 蓮如上人のお手紙

『御文章』

教義

生活

宗門

阿弥陀如来の本願力によつて信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還つて人々を教化する。

親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如来のみ心を聞き、念仏を称えつつ、つねにわが身をふりかえり、慚愧と歡喜のうちに、現世祈禱などにたよることなく、御恩報謝の生活を送る。

この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申す人々の集う同朋教団であり、人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝える教団である。それによつて、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する。

法要・行事日程

13日(月) 立教開宗記念法要

阿弥陀堂	総会所	御影堂	両堂
14時00分	14時00分	13時30分	10時30分
本願寺音御堂 P.28	常例布教(30分2席) ▶LIVE	帰敬式(午後の部) 〔御本典作法〕 P.11 引き続き(特別布教)(20分間) 本願寺派布教使 藤澤 慈恩師(京都府) ▶LIVE	6時00分 晨朝 ▶LIVE 帰敬式(午前の部)

YouTubeチャンネル「お西さん【西本願寺公式】」で▶LIVE配信いたします。

14日(火) 立教開宗記念法要

総会所	御影堂	多目的ホール	御影堂	両堂
14時00分	13時30分	13時15分	10時30分	6時00分
常例布教(30分2席) ▶LIVE	帰敬式(午後の部) 第四十六回全国講社大会	立教開宗記念法要 〔正信念佛偈作法第三種〕 P.18 引き続き(特別布教)(20分間) 本願寺派布教使 藤澤 慈恩師(京都府) ▶LIVE	6時00分 晨朝 ▶LIVE 帰敬式(午前の部)	

14日(火) 13時15分～ 第46回 全国講社大会

本願寺全国講社連絡会が主催し、毎年春の法要にあわせ開催しています。
講社は、浄土真宗の教えにもとづいて愛山護法の思いから本山本願寺を護り、阿弥陀如来さまのお慈悲の尊さ有り難さを、後の世まで広く伝えるため活動している本願寺に所属する団体です。

15日(水) 立教開宗記念法要

総会所		御影堂		両堂
15時00分	14時00分	13時00分		6時00分
常例布教(30分2席) ▶LIVE	宗祖月忌速夜法要	帰敬式(午後の部)	立教開宗記念法要 「共通勤行」和訳正信偈 P.23 引き続き(特別布教)(20分間) 本願寺派布教使 藤澤 慈恩師(京都府) ▶LIVE	縁儀 ▶LIVE 帰敬式(午前の部)
昼座 藤澤 慈恩師(京都府)				晨朝 ▶LIVE

▶ YouTubeによるお聴聞ができます！

毎日の晨朝・昼座とお西さんの土曜法話をYouTubeで

▶LIVE 配信しています。

下記チャンネルで、いつでもどこでもご法話を聴聞できます。

ぜひ、チャンネル登録してください。



YouTubeチャンネル

お西さん【西本願寺公式】



晨朝<朝のお勤め>

毎朝(6:00)/阿弥陀堂・御影堂 ▶LIVE

昼座 毎日(14:00)/総会所 30分2席 ▶LIVE

お西さんの土曜法話

土曜日(17:00)/総会所 40分1席 ▶LIVE

※本法要期間中の15日(水)昼座は15:00となります。

随時更新中!
ぜひご覧ください。



にし す いち にち お西さんで過ごす一日

ぜひご参拝ください



5:30～	○ 開門	
6:00～	○ 晨朝 <small>（お勤め・法話・御文章）</small>	両堂（阿弥陀堂・御影堂）▶LIVE
引き続き	○ 帰敬式	御影堂
11:00～	○ お西さんの法話	御影堂 15分1席 ※配信なし
11:30～	○ 総永代経 <small>（お勤め・法話）</small>	阿弥陀堂 ▶LIVE
13:30～	○ 帰敬式	御影堂
14:00～	○ 常例布教〈昼座〉	総会所 30分2席 ▶LIVE
15:00～	○ 総永代経 <small>（お勤め・法話）</small>	阿弥陀堂 ※配信なし
16:00～	○ お夕事 <small>（お勤め）</small>	両堂（阿弥陀堂・御影堂）
17:00～	○ 閉門	
毎週土曜日	○ お西さんの土曜法話	総会所 40分1席 ▶LIVE

※時間・会場等を変更する場合がございますので、ホームページ等で事前にご確認ください。

「お西のお坊さん」による境内案内 お西さんを知ろう！

本願寺の僧侶「お西のお坊さん」が、両堂や境内各所を法話を交え、ご案内いたします。どなたでも何度でもご参加できます。

参加希望の方は、上記開催時間までにお茶所にお越しください。

※本法要期間中も開催いたします。



1日4回 所要時間…約30分

集合場所：お茶所

1回目 10:00～ 2回目 11:30～

3回目 13:45～ 4回目 15:30～

ご参加いただいた方には…

オニシ
024Card 全24種

1枚をプレゼント！

本願寺の見どころを紹介するオリジナルカードです。

何がもらえるかは
お楽しみ！



お西さん(西本願寺)SNS紹介

お西さんの最新情報を各種SNSでチェック！

ぜひフォローし
ご利用ください！



公式ホームページ



LINE



YouTube



Instagram



X

御本典作法

● 13日

※お勤め(楽譜)は、
17ページより記載しています。

御本典作法は、一九七三(昭和四八)年にご制定となり、同年に修行となった親鸞聖人御誕生八百年・立教開宗七百五十年法要において、初めて依用されました。

ご文は、宗祖がご撰述になった『顕浄土真実教行証文類』(御本典)に依っており、まさに宗祖による立教開宗のおこころを受け、ご遺徳を仰ぐにふさわしい作法となっております。また本作法では、従来の声明で用いられてきた伝統的な音律を念頭におきつつ、重唱となる部分が設けられているなどの西洋音楽的な要素が付されています。

回向文



ま - ことなる か - - な -



ま - ことなる かな - せ っ し ゅ ふ しゃ し ん ご ん
撰 取 不 捨 の 真 言



ち ょ (う) せ け う し ょ (う) ぼ (う) も ん し
超 世 希 有 の 正 法 聞 思 して - -
も ん し して



ち り
遅 慮 す る こ と な か - れ

念仏

念仏頭 I II

同音

な も あ み - だ 仏 な も
南 無 阿 弥 陀 仏 南 無

念仏頭 I II

あ み - だ 仏 な も あ み - だ 仏
阿 弥 陀 仏 南 無 阿 弥 陀 仏

同音

念仏頭 I II

な も あ み - だ 仏 な も
南 無 阿 弥 陀 仏 南 無

同音

あ み - だ 仏 な も あ み - だ 仏
阿 弥 陀 仏 南 無 阿 弥 陀 仏

敬信

調声

同音

しんしゆ(5) しんしゆ(5) きよ(5)ぎよ(5)しよ(5) きよ(5)しん
真宗の 真宗の 教行証を 敬信して ことに

によらい おんどく ふか し もつ
如来の 恩徳 深きことを 知んぬ ここをもつて

き よろこ う たん
聞くところを慶び 獲るところを嘆ずる なり



に しきよ(5) おんこ(5) あお
師教の恩厚を仰ぐ



きよ(5) き いた しこ(5) おも
慶喜いよいよ至り至孝いよいよ重し

悲歎



まことに知 んぬ かなしきかな



あいよく こ(5)かい ちんもつ みよ(5)り
愛欲の広海に沈没し名利の



たいせん めいわく じよ(5)じゅ か ず い
太山に迷惑して定聚の数に入ることを



よろこ しんしよ(5) さとり ちか たの
喜ばず真証の証に近づくことを快しま



ざることを は ず べし いた むべ --し
は ず べし いた むべ --し

念仏

念仏頭 I

同音

な も あ み だ な も あ み だ な も あ み だ な も あ み だ
南 無 阿 弥 陀 仏 南 無 阿 弥 陀 仏 南 無 阿 弥 陀 仏 南 無 阿 弥 陀 仏

念仏頭 II

同音

な も あ み だ な も あ み だ な も あ み だ な も あ み だ
南 無 阿 弥 陀 仏 南 無 阿 弥 陀 仏 南 無 阿 弥 陀 仏 南 無 阿 弥 陀 仏

念仏頭 I II

同音

な も あ み だ あ - ぶ な も あ み だ あ - ぶ
南 無 阿 弥 陀 仏 南 無 阿 弥 陀 仏

慶喜

調声

同音

よ ろ こ ば しい かな よ ろ こ ば しい かな
慶 喜 ば しい かな 慶 喜 ば しい かな

こ ころ ぐ ぜ い ぶ つ じ た お も い な ん じ ほ (5) か い な が
心 を 弘 誓 の 仏 地 に 樹 て 念 を 難 思 の 法 海 に 流

す 深 かく によら い こ (5) あ い し
す 深 かく によら い の 矜 哀 を 知りて ま こ と

御本典作法

念仏

念仏頭Ⅰ 同音

な - も あ - - み - だ 南 無 阿 弥 陀 仏

念仏頭Ⅱ 同音

な - も あ - - み - だ 南 無 阿 弥 陀 仏

同音 div.

な - も 無 あ - - み - だ 南 無 阿 弥 陀 あ あ あ - ぶ 仏

宿縁

独吟 *mf*

あ あ ぐぜい ご(5)えん たしよ(5) も(5)あい 弘誓 の強縁 多生 にも 値 ひがたく

mf

しんじつ じよ(5)しん おっ(5)えん え 真 実 の 浄 信 億 劫 にも 獲 が た - - し たまたま

f rit.

ぎよ(5)しん え とお しゆくえん よろ こ 行 信 を 獲 ば とお しゆくえん を 慶 こ べ

正信念佛偈

● 14日

宗祖親鸞聖人がおつくりになったもので、一般に「正信偈」として親しまれ、日常のお勤めに用いられる、もつともなじみ深い偈文（詩）です。

はじめに「帰命無量寿如来 南無不可思議光（限りない命の如来に帰命し、思いはかることのできない光の如来に帰依したてまつる）」とご自身の信心を述べられ、ついで『佛説無量寿経』（大経）のおこころとインドの龍樹菩薩・天親菩薩、中国の曇鸞大師・道綽禪師・善導大師、日本の源信和尚・源空（法然）聖人のお導きを明らかにされています。

そして「応信如来如実言（釈尊のまことの教えを信ずるがよい）」、「唯可信斯高僧説（この高僧方の教えを仰いで信ずるがよい）」と、釈尊がお説きくださった阿弥陀如来のみ教えと、このみ教えをお伝えくださった前述の七高僧のお導きにしたがうことを勧められています。

すなわち、この偈文は、南無阿弥陀佛のおよび声に素直にしたがわれた聖人ご自身の「信心のよろこびの詩」であり、すべての人びとが阿弥陀如来の救いにあずかってほしいという聖人の思いが込められています。

○

重 <small>じゆう</small>	五 <small>ご</small>	超 <small>ちゆう</small>	建 <small>けん</small>	国 <small>こく</small>	觀 <small>と</small>	在 <small>ざい</small>	法 <small>ほう</small>	南 <small>な</small>	歸 <small>き</small>
誓 <small>せい</small>	劫 <small>こく</small>	発 <small>はつ</small>	立 <small>りつ</small>	土 <small>ど</small>	見 <small>けん</small>	世 <small>せ</small>	蔵 <small>ぞう</small>	無 <small>も</small>	命 <small>みやう</small>
名 <small>みやう</small>	思 <small>し</small>	希 <small>け</small>	無 <small>む</small>	人 <small>にん</small>	諸 <small>しよ</small>	自 <small>じ</small>	菩 <small>ぼ</small>	不 <small>ふ</small>	無 <small>む</small>
声 <small>しやう</small>	惟 <small>ゆい</small>	有 <small>う</small>	上 <small>じやう</small>	天 <small>てん</small>	仏 <small>ぶつ</small>	在 <small>ざい</small>	薩 <small>さつ</small>	可 <small>か</small>	量 <small>りやう</small>
聞 <small>もん</small>	之 <small>し</small>	大 <small>だい</small>	殊 <small>しゆ</small>	之 <small>し</small>	淨 <small>じやう</small>	王 <small>おう</small>	因 <small>いん</small>	思 <small>し</small>	寿 <small>じゆ</small>
十 <small>じつ</small>	摂 <small>しやう</small>	弘 <small>く</small>	勝 <small>しやう</small>	善 <small>ぜん</small>	土 <small>ど</small>	仏 <small>ぶつ</small>	位 <small>に</small>	議 <small>ぎ</small>	如 <small>によ</small>
方 <small>ほう</small>	受 <small>じゆ</small>	誓 <small>せい</small>	願 <small>がん</small>	惡 <small>まく</small>	因 <small>いん</small>	所 <small>しよ</small>	時 <small>じ</small>	光 <small>こう</small>	来 <small>らい</small>

必 <small>ひつ</small>	成 <small>じやう</small>	至 <small>し</small>	本 <small>ほん</small>	一 <small>いつ</small>	超 <small>ちゆう</small>	不 <small>ふ</small>	清 <small>しやう</small>	無 <small>む</small>	普 <small>ふ</small>
至 <small>し</small>	等 <small>とう</small>	心 <small>しん</small>	願 <small>がん</small>	切 <small>さい</small>	日 <small>にち</small>	断 <small>だん</small>	淨 <small>じやう</small>	碍 <small>げ</small>	放 <small>ほう</small>
滅 <small>めつ</small>	覺 <small>かく</small>	信 <small>しん</small>	名 <small>みやう</small>	群 <small>ぐん</small>	月 <small>がつ</small>	難 <small>なん</small>	歡 <small>かん</small>	無 <small>む</small>	無 <small>む</small>
度 <small>ど</small>	証 <small>しやう</small>	樂 <small>がく</small>	号 <small>ごう</small>	生 <small>じやう</small>	光 <small>こう</small>	思 <small>し</small>	喜 <small>ぎ</small>	对 <small>たい</small>	量 <small>りやう</small>
願 <small>がん</small>	大 <small>だい</small>	願 <small>がん</small>	正 <small>しやう</small>	蒙 <small>む</small>	照 <small>しやう</small>	無 <small>む</small>	智 <small>ち</small>	光 <small>こう</small>	無 <small>む</small>
成 <small>じやう</small>	涅 <small>ね</small>	為 <small>に</small>	定 <small>じやう</small>	光 <small>こう</small>	塵 <small>じん</small>	称 <small>しやう</small>	慧 <small>え</small>	炎 <small>えん</small>	辺 <small>へん</small>
就 <small>じゆ</small>	槃 <small>はん</small>	因 <small>いん</small>	業 <small>ごう</small>	照 <small>しやう</small>	刹 <small>せつ</small>	光 <small>こう</small>	光 <small>こう</small>	王 <small>のう</small>	光 <small>こう</small>

已 <small>い</small>	摂 <small>せつ</small>	如 <small>によ</small>	凡 <small>ほん</small>	不 <small>ふ</small>	能 <small>のう</small>	応 <small>おう</small>	五 <small>ご</small>	唯 <small>ゆい</small>	如 <small>によ</small>
能 <small>のう</small>	取 <small>しゆ</small>	衆 <small>しゆ</small>	聖 <small>じやう</small>	断 <small>だん</small>	発 <small>はつ</small>	信 <small>しん</small>	濁 <small>じよく</small>	説 <small>せつ</small>	来 <small>らい</small>
雖 <small>すい</small>	心 <small>しん</small>	水 <small>しゆ</small>	逆 <small>ぎやく</small>	煩 <small>ぼん</small>	一 <small>いち</small>	如 <small>によ</small>	惡 <small>あく</small>	弥 <small>み</small>	所 <small>しよ</small>
破 <small>は</small>	光 <small>こう</small>	入 <small>にゆう</small>	謗 <small>ぼう</small>	惱 <small>のう</small>	念 <small>ねん</small>	来 <small>らい</small>	時 <small>じ</small>	陀 <small>だ</small>	以 <small>い</small>
無 <small>む</small>	常 <small>じやう</small>	海 <small>かい</small>	齊 <small>さい</small>	得 <small>とく</small>	喜 <small>き</small>	如 <small>によ</small>	群 <small>ぐん</small>	本 <small>ほん</small>	興 <small>こう</small>
明 <small>みやう</small>	照 <small>しやう</small>	一 <small>いち</small>	回 <small>え</small>	涅 <small>ね</small>	愛 <small>あい</small>	実 <small>じつ</small>	生 <small>じやう</small>	願 <small>がん</small>	出 <small>しゆつ</small>
闇 <small>あん</small>	護 <small>ご</small>	味 <small>み</small>	入 <small>にゆう</small>	槃 <small>はん</small>	心 <small>しん</small>	言 <small>ごん</small>	海 <small>かい</small>	海 <small>かい</small>	世 <small>せ</small>

是^ぜ 仏^{ぶつ} 聞^{もん} 一^{いつ} 即^{そく} 獲^{ぎやく} 雲^{うん} 譬^ひ 常^{じょう} 貪^{とん}
 人^{にん} 言^{ごん} 信^{しん} 切^{さい} 横^{おう} 信^{しん} 霧^む 如^{によ} 覆^ふ 愛^{ない}
 名^{みょう} 広^{こう} 如^{によ} 善^{ぜん} 超^{ちよう} 見^{けん} 之^し 日^{にっ} 真^{しん} 瞋^{しん}
 分^{ぶん} 大^{だい} 来^{らい} 惡^{まく} 截^{ぜつ} 敬^{きやう} 下^げ 光^{こう} 実^{じつ} 憎^{ぞう}
 陀^だ 勝^{しょう} 弘^ぐ 凡^{ほん} 五^ご 大^{だい} 明^{みやう} 覆^ふ 信^{しん} 之^し
 利^り 解^げ 誓^{ぜい} 夫^ぶ 惡^{あく} 慶^{きやう} 無^む 雲^{うん} 心^{じん} 雲^{うん}
 華^け 者^{しゃ} 願^{がん} 人^{にん} 趣^{しゆ} 喜^き 闇^{あん} 霧^む 天^{てん} 霧^む

為^い 釈^{しゃ} 明^{みやう} 顕^{けん} 中^{ちゆう} 印^{いん} 難^{なん} 信^{しん} 邪^{じゃ} 弥^み
 衆^{しゆ} 迦^か 如^{によ} 大^{だい} 夏^か 度^ど 中^{ちゆう} 樂^{がく} 見^{けん} 陀^だ
 告^{ごう} 如^{によ} 来^{らい} 聖^{しょう} 日^{じち} 西^{さい} 之^し 受^{じゆ} 憍^{きやう} 仏^{ぶつ}
 命^{みょう} 来^{らい} 本^{ほん} 興^{こう} 域^{いき} 天^{てん} 難^{なん} 持^じ 慢^{まん} 本^{ほん}
 南^{なん} 楞^{りやう} 誓^{ぜい} 世^せ 之^し 之^し 無^む 甚^{じん} 惡^{あく} 願^{がん}
 天^{てん} 伽^が 応^{おう} 正^{しょう} 高^{こう} 論^{ろん} 過^か 以^に 衆^{しゆ} 念^{ねん}
 竺^{じく} 山^{せん} 機^き 意^い 僧^{そう} 家^げ 斯^し 難^{なん} 生^{じやう} 仏^{ぶつ}

応^{おう} 唯^{ゆい} 自^じ 憶^{おく} 信^{しん} 顕^{けん} 証^{しょう} 宣^{せん} 悉^{しつ} 龍^{りゆう}
 報^{ほう} 能^{のう} 然^{ねん} 念^{ねん} 樂^{がく} 示^じ 歡^{かん} 說^{ぜつ} 能^{のう} 樹^{じゆ}
 大^{だい} 常^{じょう} 即^{そく} 弥^み 易^い 難^{なん} 喜^き 大^{だい} 摧^{さい} 大^{だい}
 悲^ひ 称^{しょう} 時^じ 陀^だ 行^{ぎやう} 行^{ぎやう} 地^ち 乘^{じやう} 破^は 士^じ
 弘^ぐ 如^{によ} 入^{にゅう} 仏^{ぶつ} 水^{すい} 陸^{ろく} 生^{じやう} 無^む 有^う 出^{しゅつ}
 誓^{ぜい} 来^{らい} 必^{ひつ} 本^{ほん} 道^{どう} 路^ろ 安^{あん} 上^{じやう} 無^む 於^と
 恩^{おん} 号^{ごう} 定^{じやう} 願^{がん} 樂^{らく} 苦^く 樂^{らく} 法^{ほう} 見^{けん} 世^せ

即そく得とく必ひつ帰き為い広こう光こう依え帰き天てん
 証しょう至し獲ぎやく入にゅう度ど由ゆ闡せん修しゆ命みやう親じん
 真しん蓮れん入にゅう功く群ぐん本ほん横おう多た無む菩ぼ
 如によ華げ大だい徳どく生じやう願がん超ちやう羅ら碍げ薩さつ
 法ほつ蔵ぞう会え大だい彰しやう力りき大だい顕けん光こう造ぞう
 性じやう世せ衆しゆ宝ほう一いつ回え誓せい真しん如によ論ろん
 身じん界かい数しゆ海かい心しん向こう願がん実じつ来らい説せつ

正しやう往おう報ほう天てん焚ほん三さん常じやう本ほん入にゅう遊ゆう
 定じやう還げん土ど親じん燒じやう蔵ぞう向こう師し生じやう煩ぼん
 之し回ね因いん菩ぼ仙せん流る鸞らん曇どん死じ惱のう
 因いん向こう果が薩さつ經ぎやう支し処しよ鸞らん園おん林りん
 唯ゆい由ゆ顕けん論ろん帰き授じゆ菩ぼ梁りやう示じ現げん
 信しん他た誓せい註ちゆう樂らく淨じやう薩さつ天てん応おう神じん
 心じん力りき願がん解げ邦ほう教きやう礼らい子し化げ通づう

像ぞう三さん円えん万まん唯ゆい道どう諸しよ必ひつ証しょう惑わく
 末まつ不ふ満まん善ぜん明みやう道どう有う至し知ち染ぜん
 法ほふ三さん徳とく自じ淨じやう決けつ衆しゆ無む生じやう凡ぼん
 滅めつ信しん号ごう力りき土ど聖しやう生じやう量りやう死じ夫ふ
 同どう誨へい勸かん貶へん可か道どう皆かい光こう即そく信しん
 悲ひ慇おん專せん勤こん通つう難なん普ふ明みやう涅ね心じん
 引いん懃こん称しやう修しゆ入にゅう証しょう化け土ど槃はん発はつ

即そく 与よ 慶きょう 行ぎょう 開かい 光こう 矜こう 善ぜん 至し 一いつ
 証しやう 韋い 喜き 者じゃ 入にゅう 明みょう 哀あい 導どう 安あん 生しやう
 法ほつ 提だい 一いち 正しやう 本ほん 名みょう 定じやう 独どく 養にやう 造ぞう
 性しやう 等とう 念ねん 受じゆ 願がん 号ごう 散さん 明みょう 界がい 惡あく
 之し 獲ぎやく 相そう 金こん 大だい 顯けん 与よ 仏ぶつ 証しやう 值ち
 常じやう 三さん 応おう 剛ごう 智ち 因いん 逆ぎやく 正しやう 妙みやう 弘く
 樂らく 忍にん 後ご 心しん 海かい 縁ねん 惡あく 意い 果か 誓ぜい

憐れん 本ほん 大だい 煩ぼん 我が 極ごく 報ほう 專せん 偏へん 源げん
 愍みん 師し 悲ひ 惱のう 亦やく 重じゆう 化け 雜ぞう 歸き 信しん
 善ぜん 源げん 無む 障しやう 在ざい 惡あく 二に 執しゆう 安あん 広こう
 惡まく 空くう 倦けん 眼げん 彼ひ 人にん 土ど 心しん 養にやう 開かい
 凡ぼん 明みやう 常じやう 雖すい 撮せつ 唯ゆい 正しやう 判はん 勸かん 一いち
 夫ふ 仏ぶつ 照しやう 不ふ 取しゆ 称しやう 弁べん 浅せん 一いつ 代だい
 人にん 教きやう 我が 見けん 中ちゆう 仏ぶつ 立りゆう 深じん 切さい 教きやう

唯ゆい 道どう 拯じゆう 弘く 必ひつ 速そく 決けつ 還げん 選せん 真しん
 可か 俗ぞく 濟さい 經きやう 以ち 入にゅう 以ち 来らい 扞じやく 宗しゆう
 信しん 時じ 無む 大だい 信しん 寂じやく 疑ぎ 生しやう 本ほん 教きやう
 斯し 衆しゆう 辺へん 士し 心しん 静じやう 情じやう 死じ 願がん 証しやう
 高こう 共く 極ごく 宗しゆう 為い 無む 為い 輪りん 弘く 興こう
 僧そう 同どう 濁じやく 師し 能のう 為い 所しよ 轉でん 惡あく 片へん
 說せつ 心しん 惡あく 等とう 入にゅう 樂らく 止し 家げ 世せ 州しゆう

「共通勤行」和訳正信偈

● 15日

○ひかりといのち きわみなき
阿弥陀ほとけを 仰がなん
法蔵比丘の いにしえに
世自在王の みもとにて

諸仏浄土の 因たずね
人天のよしあし みそなわし
すぐれし願を 建てたまひ
まれなる誓い おこします

ながき思惟の時へてぞ
この願選び 取りませり
かさねてさらに 誓うらく
わが名よひろく 聞えかし

十二のひかり 放ちては
あまたの国を 照します
生きとしいくる ものすべて
このみひかりの うちにある

本願成就の そのみ名を
信ずるところ ひとつにて
ほとけのさとり ひらくこと
願い成りたる しるしなり

教主世尊は 弥陀仏の
誓い説かんと 生れたもう
にこりの世にし まどうもの
おしえのまこと 信ずべし

信心ひとたび おこりなば
煩惱を断たて 涅槃あり
水のうしおと なるがごと
凡夫とひじり 一味なり

摂取のひかり あきらけく
無明の闇 晴れ去るも
まどいの雲は 消えやらで
つねに信心の そら覆う

よし日の雲に 隠るとも
下に闇なき ごとくなり
信心よろこび うやまえば
まよいの道は 截ちきられ

ほとけの誓い 信ずれば
いとおろかなる ものとても
すぐれし人と ほめたまい
白蓮華とぞ たたえます

南無阿弥陀仏の みおしえは
おごり・たかぶり よこしまの
はかろう身にて 信ぜんに
難きなかにも なおかたし

七高僧は ねんごろに
釈迦のみこころ あらわして
弥陀の誓いの 正機をば
われらにありと あかします

楞伽の山に 釈迦説けり
南天竺に 比丘ありて
よこしまくじき 真実のべ
安楽国に うまれんと

みことのままに あらわれし
龍樹大士は おしえます
陸路のあゆみ 難けれど
船路の旅の 易きかな

弥陀の誓いに 帰しぬれば
不退のくらい 自然なり
ただよくつねに み名となえ
ふかきめぐみに こたえかし

天親菩薩 論を説き
ほとけのひかり 仰ぎつつ
おしえのまこと あらわして
弥陀の誓いを ひらきます

本願力の めぐみゆえ
ただ一心の 救いかな
ほとけのみ名に 帰してこそ
浄土の聖衆の かずに入れ

蓮華の国に うまれては
真如のさとり ひらきてぞ
生死の園に かえりきて
まよえる人を 救うなり

曇鸞大師 徳たかく
梁の天子に あがめらる
三蔵流支に みちびかれ
仙経すてて 弥陀に帰す

天親の論 釈しては
浄土にうまるる 因果も
往くも還るも 他力ぞと
ただ信心を すすめけり

まどえる身にも 信あらば
生死のままに 涅槃あり
ひかりの国に いたりては
あまたの人を 救うべし

道綽どうしやく・禪師ぜんじ あきららかに

聖道じやうどう・浄土じやうどの 門かどわかち

自力じりきの善ぜんを おとしめて

他力たうりきの行ぎやうを すすめつつ

信しんと不信ふしんを ねんごろに

末すえの世よかけて おしえます

一生いつしやう悪あくを 造つくるとも

弘誓くわうぜいに値あいて 救すくわるる

善導ぜんどう大師だいし ただひとり

釈迦しゃかの正意しやういを あかしてぞ

自力じりきの凡夫ぼんぷ あわれみて

ひかりとみ名の 因縁いんえん説とく

誓ちかいの海うみに 入いりぬれば

信しんをよろこぶ 身みとなりて

韋提いだいのごとく 救すくわれつ

やがてさどりの 花はなひらく

源信げんしん和尚かしよう 弥陀みだに帰きし

おしえかずある そのなかに

眞実まこと報土のくにに うまるるは

ふかき信しんにぞ よると説とく

罪つみの人ひとびと み名なをよべ

われもひかりの うちにある

まどの眼めには 見みえねども

ほとけはつねに 照てらします

源空げんくう上人しやうにん 智慧ちえすぐれ

おろかなるもの あわれみて

浄土じやうど眞宗しんしゆう おこしては

本願ほんがん念仏ねんぶつ ひろめます

まよいの家いえに かえらんは

疑うたがう罪つみの あればなり

さどりの国くにに うまるるは

ただ信心しんじんに きわまりぬ

七高僧しちこうそうは あわれみて
われらをおしえ すくいます
世よのもろびとよ みなともに
このみさとしを 信しんずべし

○南な南な南な南な南な南な
無む無む無む無む無む無む
阿あ阿あ阿あ阿あ阿あ阿あ
弥み弥み弥み弥み弥み弥み
陀だ陀だ陀だ陀だ陀だ陀だ
仏ぶつ仏ぶつ仏ぶつ仏ぶつ仏ぶつ仏ぶつ

○十方衆生のためにとて
如来の法蔵あつめてぞ
本願弘誓に帰せしむる
大心海を帰命せよ

観音勢至もろともに
慈光世界を照曜し
有縁を度してしばらくも
休息あることなかりけり

たとひ大千世界に
みてらん火をもすぎゆきて
仏の御名をきくひとは
ながく不退にかなふなり

宝林宝樹微妙音
自然清和の伎楽にて
哀婉雅亮すぐれたり
清浄楽を帰命せよ

清風宝樹をふくときは
いつつの音声いだしつ
宮商和して自然なり
清浄勲を礼すべし

一一のはなのなかよりは
三十二百千億の
光明てらしてほがらかに
いたらぬところはさらになし

○願以此功徳

平等施一切

同発菩提心

往生安楽国

国宝・重要文化財 特別公開

2026(令和8年)

4月13日(月)・14日(火)・15日(水)

飛雲閣・経蔵を公開

立教開宗記念法要(日中)法話終了後 ~16:00

見に来て
くださいね!



※法要期間中、国宝・重要文化財を特別公開いたします。

※拝観にあたっては、本山重要文化財保護管理基金へのご協力をお願いいたします。

※受付は、終了30分前までです。



ひ うん かく 国宝 飛雲閣

飛雲閣は、三層で柿葺きの屋根をもつ楼閣です。初層は入母屋造に唐破風と千鳥破風を左右に、二層は寄棟造の三方に小さな唐破風を配し、三層は寄棟造と変化に富んでいます。金閣・銀閣とともに京都三名閣と呼ばれています。

きょう ぞう 重要文化財 経蔵

延宝5年(1677)に建てられた経蔵内部には、天海僧正が刊行した『大蔵経(一切経)』が納められた巨大な八角の輪蔵があります。



仏さまを讃える大合唱

本願寺音御堂 2026・春

「本願寺音御堂」は、日頃より
仏教讃歌に親しむ僧侶や門信徒
のみなさんが西本願寺に集う合
唱大会です。今回、七年ぶりに
春の音御堂が帰ってきます。ま
た、童謡詩人・金子みすゞの詩
による作品も初登場。阿弥陀堂
に響く、よろこびの歌声をお味
わいください。

日時 4月13日(月)
14時〜(約40分)

会場 阿弥陀堂

曲目 ・生かされて
・さびしいとき

・みほとけは 他

出演 全国の仏教讃歌合唱団・
個人のみなさん

指揮・森永淳一

伴奏・石川紀久子

山内真理子



 YouTube

浄土真宗本願寺派公式
YouTubeチャンネル
「浄土真宗本願寺派」



※本願寺音御堂2026・春は、
宗派公式YouTubeチャンネルにて
ライブ配信。



「ご参拝の皆さまへ」

帰敬式のご案内

「当日のお申し込みでも」

法名をいただくことができます」

帰敬式は「おかみそり」とも呼ばれ、

親鸞聖人の御前で

浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにし

お念仏とともにこのいのちを精いっぱい

生きることを誓う大切な儀式です。

仏教をひらかれたお釋迦さまの「釋」の一字と

漢字二文字からなる「法名」が授けられます。

「法名」とは、み教え(法)を依りどころとして

お浄土への道を歩ませていただく

仏弟子としての「名のり」です。

※漢字二文字は、經典(浄土三部経)や

親鸞聖人のご著書の中より選ばれています



本願寺HP



帰敬式のご案内

受式時間

※本願寺にて毎日2回行っております。

(式は御影堂にて行われます)

【午前の部】 晨朝(6時)に引き続き

【午後の部】 13時30分から

※速夜法要(14時)がある場合は13時となりますので
事前にご確認ください。

受付冥加金

【成人】 12,000円 ※成人年齢は18歳

【未成年】 6,000円

※希望する法名(2文字)がある場合、所属寺住職と相談のうえ、法名を
内願することができます。受式希望日より2か月前の申請が必要と
なり、上記冥加金に加えて10,000円以上の懇志をお納めいただきます。

受付場所 龍虎殿

申込方法

龍虎殿(参拝教化部)受付にて『帰敬式受式願』【※PDF形式ダウンロード可】と受式冥加金を添えてお申込みください。

事前に記入の上、封書またはファックスでお申込みいただくと受
付時間が短縮されます。

※【お西さん(西本願寺)ホームページ】⇒【各種お申込み】⇒【帰敬式】か
らA4用紙にプリントしてご利用ください。



法名の他、お念珠、式章、帰敬文、浄土真宗 必携 み教え
と歩むをお渡ししています。



帰敬式法名用紙・包み紙

参拝教化部(帰敬式係) ※本人以外の受式は認められません。

「院号」をいただくには



「院号」を いただくには

院号って何？



院号は、宗門へ貢献をされた方や、20万円以上の永代経懇志を納めていただいた方へ授与しているものです。

おくれる院号は「○○院」の漢字3文字で浄書(墨書き)したものに本願寺印が押印されています。院号はご自身の希望の文字を入れて、内願することができます。帰敬式を受式されている方には、院号のあとに法名「釋○○」が併記されます。

院号・法名は生前にいただくことができるんだね！



院号とあわせて式章もいただけるんだね！



「院号」がいただける基準

- 寺院の門徒総会を通算20年(5期)以上経歴された方や、寺院の責任役員を通算12年(3期)以上経歴されるなどその功績が認められた方
- 宗門および本山に多額の永代経懇志を進納された方(懇志20万円以上の永代経扱いとして交付)

■ 永代読経修行之証

永代経申し込み後、初めて法要にお参りいただいた際に、「永代読経修行之証」という証書をお渡しします。この証書をお持ちいただいた方には、これ以降本願寺「国宝」阿弥陀堂にて、原則1日2回修行される総永代経法要にいつでもお参りいただき焼香することができます。



参拝教化部(永代経係)

※大谷本願でもお申し込みいただけます。
※お世話になっているお寺のある方は、そちらにご相談ください。

すべてのご家庭に阿弥陀様を ご本尊

龍虎殿(参拝教化部)受付にてお迎えいただくことができます。

〈左側〉蓮如上人(運師)



〈中央〉御本尊(阿弥陀如来)



〈右側〉親鸞聖人(宗祖・祖師)



※上記写真の他に六字尊号(南無阿弥陀仏)、九字尊号(南無不可思議光如来)、十字尊号(歸命尽十方無礙光如来)がございます。
※大きさと表装の違いにより冥加金額が変わりますので、詳しくは参拝教化部(免物係)までお問い合わせください。

いちよう・きく

いろいろな生活環境においても、心のよりどころとしてのご本尊を安置していただける小型の「いちよう」と「きく」があります。それぞれにご絵像と六字名号があります。



いちよう

縦24cm×横19cm×奥行9cm
冥加金 50,000円



きく

縦17.2cm×横10.3cm×奥行2.9cm
冥加金 39,000円

携行本尊(絵像)

個々の生活スタイルに合わせて、持ち歩くことができる名刺サイズのご本尊です。



縦90mm×横55mm
×厚み2mm
漆ブラック調
バイオプラスチック

みょうがきん
冥加金
10,000円

携行本尊

お申し込み
フォーム
はこちら



ご本尊 / いちよう・きく

お申し込み
フォーム
はこちら

門信徒/
一般用



寺院用



2026(令和8)年度「お西さんの奉仕団～半日バージョン～」

国宝で特別体験 をしてみませんか？

どなたでも
おひとりさまから
ご参加
いただけます。



西本願寺での清掃体験を通して、
浄土真宗のみ教えや、親鸞聖人のご生涯、
本願寺の歴史にふれていただけます。
ぜひ、ご参加お待ちしております。

開催日時	第1回	(令和8) 2026年	5月3日	日
	第2回	(令和8) 2026年	5月31日	日
	第3回	(令和8) 2026年	11月7日	土
	第4回	(令和8) 2026年	12月6日	日
	14:00~16:30	受付は龍虎殿1階にて行います。 10分前にはご集合ください。		

定員 各70名

参加想志 1名につき3,000円
※小学生以上は通常想志、小学生未満は無料とします。

会場 阿弥陀堂・御影堂・書院 他

内容 阿弥陀堂・御影堂・渡り廊下・喚鐘廊下等の清掃作業

申込手順 開催1週間前までに参拝教化部念仏奉仕団担当へ
電話、申込フォームまたは直接お申し込みください。

携行品 清掃奉仕のできる服装、念珠、雑巾1枚、
マイナ保険証又は健康保険資格確認書、
その他各々が必要とするもの。

連絡先 本願寺参拝教化部 念仏奉仕団担当
TEL.075-371-5181(代表)
FAX.075-371-7601(直通)



申込みフォーム



ぜひ参加
してね!



Time Schedule

14:10~

清掃

阿弥陀堂・御影堂の外陣や
縁側及び渡り廊下の清掃を
していただきます。

14:50~

書院案内・
抹茶接待

参加者のみなさまを
特別に書院へご案内し、
国宝の鴻の間に抹茶を
召しあげいただきます。

16:00~

日没勤行参拝

本願寺での日没のお勤めを
ご一緒に。

16:10~

法話

最後に、ほとけさまの
お話を聞きます。

※「お西さんの奉仕団～半日バージョン～」への団体及び個人の参加については、1泊2日日程の念仏奉仕団の参加回数には
カウントされません。

※午後の帰敬式受式(冥加金1万2千円)を希望される方は12:30までに龍虎殿にて受付を済ませてください。



第23代宗主 勝如上人25回忌法要

6月12日(金)・13日(土)・14日(日)

於：御影堂

速夜法要 14時

日中法要 10時

日中法要 10時



速夜法要 14時

第23代宗主勝如上人は、1911(明治44)年にご誕生、満15歳で本願寺住職・本願寺派管長・浄土真宗本願寺派第23代法主(のち門主に改称)に就任されました。戦後の混乱期にあつて教団の民主化に尽力され、1947(昭和22)年より組巡教を開始して全国各地を回り、さらに北米・ハワイ・南米・カナダの各海外開教区及びアジア・豪州の開教地や欧州などへもご巡教され、念仏のみ教えの弘通に努められました。また、「浄土真宗の生活信条」「浄土真宗の教章」を制定され、門信徒の依りどころを明確にされました。2002(平成14)年6月14日、90歳でご往生。上人のご遺徳をお偲びする本法要にぜひご参拝ください。

2026(令和8)年 本願寺の法要行事

元旦会・修正会	1月 1日(木・祝)
御正忌報恩講法要	1月 9日(金)～16日(金)
如月忌	2月 7日(土)
本山成人式	3月 7日(土)
春季彼岸会	3月17日(火)～23日(月)
花まつり	4月 7日(火)～ 8日(水)
〈春の法要〉立教開宗記念法要	4月13日(月)～15日(水)
誕生会(日野誕生院宗祖降誕会)	5月19日(火)
宗祖降誕会	5月20日(水)～21日(木)
広如忌(角坊)	6月 1日(月)～ 2日(火)
大谷本廟納骨・永代経総追悼法要	6月 5日(金)～ 8日(月)
第23代宗主勝如上人25回忌法要	6月12日(金)～14日(日)
朝の法座(大谷本廟)	7月20日(月・祝)～22日(水)
盂蘭盆会	8月14日(金)～15日(土)
戦没者追悼法要	8月15日(土)
千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要 (東京・国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑)	9月18日(金)
秋季彼岸会	9月20日(日)～26日(土)
龍谷会(大谷本廟報恩講法要)	10月15日(木)～16日(金)
〈秋の法要〉全国門徒総追悼法要	11月22日(日)～23日(月・祝)
御煤払	12月20日(日)
除夜会	12月31日(木)

宗祖月忌法要 毎月15日・16日(※1月は除く)

親鸞聖人の
ご誕生のお祝い

宗祖降誕会

二〇二六(令和八)年

五月二十日(水)・二十一日(木)

浄土真宗を開かれた親鸞聖人は一一七三年五月二十一日(承安三年四月一日)、京都の日野の里でお生まれになりました。

日野の里では、江戸時代からご誕生をお祝いする行事が行われていたと伝えられています。

一八七四(明治七)年五月二十一日、本願寺第二十一代宗主明如上人によって本願寺において宗祖降誕会が、営まれるようになりました。

現在では、五月二十日、二十一日の二日間、ご法要を勤め、併せて祝賀能・茶席などの行事を催しております。

五月二十日(水) 十四時

二十一日(木) 十時

十一時三十分

十四時三十分

速夜法要(御影堂)

日中法要(御影堂)

宗祖降誕奉讃法要(御影堂)

雅楽献納会(御影堂)

祝賀能

とき

五月二十一日(木)

開場十二時

開演十二時三十分

ところ

●南能舞台

※「観能券」が必要です。

茶席

※全席イス席

とき

五月二十日(水)

開場十二時三十分〜十六時

五月二十一日(木)

開場九時三十分〜十五時三十分

ところ

●飛雲閣

※「茶席券」が必要です。

四月中旬より龍虎殿にて参拝懇志(五千円以上)をご進納の方に、「茶席券および観能券」をお渡しいたします。(五月二十日、二十一日は、白洲受付テントにて受付)また、二十一日九時より白洲受付テントで、観能券をお持ちの方に祝賀能の入場整理券をお渡しいたします。



- 本年の番組
- 一、能 東北(とうほく)
 - 一、狂言 魚説経(うおぜつきょう)
 - 一、能 融(とゆる)

